

平成27年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 重井 中学校

国語

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	66.8	68.1	69.9	3.1
	基礎	68.3	69.9	72.7	4.4
	活用	61.7	61.4	60	-1.7
領域	話すこと・聞くこと	78.1	78.3	84.2	6.1
	書くこと	66.3	68.8	66.0	-0.3
	読むこと	64	63.4	68.8	4.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.9	68.6	67.8	1.9
観点	国語への関心・意欲・態度	70.2	71.1	71.1	0.9
	話す・聞く能力	72.3	72.3	74.8	2.5
	書く能力	64.5	66.7	63.9	-0.6
	読む能力	64.0	63.4	68.8	4.8
	言語についての知識・理解・技能	65.6	68.4	67.6	2.0

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成28年度	+2	+2	+2

※県平均との差を記入する。

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

1. 読む能力

①話し合いと板書の内容を読み比べ情報を整理することに課題がある。

②文学的文章において、場面の展開に即して内容をとらえること。

2. 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

①修飾語などの文法事項について基礎的な理解をすること。

1-①授業の中で、多様な資料や情報を読み解く活動を設定し、そのための具体的な視点を丁寧に指導する。

1-②読書推進活動の活性化を図り、興味をもって文学作品に読み慣れさせる。(ブックトークを継続する)

2-①系統的な文法学習を計画的に行う。

1. 学年末テストで検証問題を実施。

2. 学年末テストで文法事項の検証問題を実施。

平成27年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 重井 中学校

社会

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	55.5	54.1	44.0	-11.5
	基礎	57.5	56.2	45.6	-11.9
	活用	44.2	42.2	35.3	-8.9
領域	世界の地域構成	74.6	75.5	66.7	-7.9
	世界各地の人々の生活と環境	58.4	57.1	50.0	-8.4
	世界の地域構成諸地域	56.1	53.3	43	-13.1
	古代までの日本	50.9	49.5	39.7	-11.2
	中世の日本	48.1	47.7	34.7	-13.4
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	54.6	53.4	40.6	-14.0
	社会的な思考・判断・表現	54.6	53.4	40.6	-14.0
	資料活用の技能	52.6	50.5	42.1	-10.5
	社会的事象についての知識・理解	57.3	56.3	46.5	-10.8

R 重点課題(観点)

1. 社会的事象への関心・意欲・態度
①身近な社会的事象を通して、社会科を好きにさせる。
2. 社会的な思考・判断・表現
①時事問題に関心をもたせ、自らの考えを表現する活動を充実させる。
3. 資料活用の技能
①地理分野
世界の諸地域について、ヨーロッパ州と北アメリカ州の資料を読みとる復習を行う。
②歴史分野
中世を中心に、各時代の資料を読みとる復習を行う。
4. 社会的事象についての知識・理解
①長期的・計画的に基礎的事項の定着を図る。

P D 重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

- 1-①
・地域を探索するなど地域学習を行い、社会科への興味・関心高める。
・知識を持つことの楽しさを体験させるため、学習単元毎に基礎力評価テストを実施する。
- 2-①
N I Eを充実させる。全校意見発表で新聞を読んで意見を発表させることで、思考・判断・表現力を高める。
- 3-①
「社会の総仕上げ問題集」(東京書籍)を活用し、世界の諸地域について、要点整理を行うとともに、資料活用の問題を繰り返し行う。(授業の中で・宿題として・同じ問題による評価テスト)
- 3-②
「社会の総仕上げ問題集」を活用し、各時代の要点整理を行うとともに、資料活用の問題を繰り返し行う。(授業の中で・宿題として・同じ問題による評価テスト)
- 3-①②
資料活用の問題について、授業の中で考える時間を多くする。
- 4-①
日常的に「社会の総仕上げ問題集」(東京書籍)(要点整理と問題)を、2年次の最初から2年間かけて何回も繰り返しやっていくことで、達成感をもたせ、自信を高める。(授業の中で・宿題として・同じ問題による評価テスト)

C 検証スケジュール

- ・定期テストで検証問題を実施する。
- ・正答率が低い分野の問題については、評価問題を繰り返し行う。

平成27年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 重井 中学校

数 学

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	69.8	69.0	71.4	1.6
	基礎	73.4	72.5	76.8	3.4
	活用	56.5	56.1	52.1	-4.4
領域	数と計算	79.5	79.2	83.3	3.8
	量と測定	60.7	60.7	67.2	6.5
	図形	73.1	72.8	76.7	3.6
観点	数量関係	63.4	61.6	60.0	-3.4
	数学への関心・意欲・態度	58.9	58.4	58.1	-0.8
	数学的な見方や考え方	59.1	58.5	56.8	-2.3
	数学的な技能	73.7	73.0	76.2	2.5
	数量や図形などについての知識・理解	65.6	65.2	68.2	2.6

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成28年度	3	2	4

※県平均との差を記入する。

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

1. 活用

① 度数の異なるグラフを比較するしたり説明したりできる。

2. 数量関係

① 百分率について理解し、必要な数値を求めることができる。

3. 数学的に見方や考え方

① 折れ線グラフと棒グラフを正しく読み取ることができる。

② 比を使って、使う量を求めることができる。

1-① 比較して、共通点や相違点を示すことを既習させる。
グラフを用いて説明する学習を意識して進める。

2-① 日常生活の事象の中から、百分率を取り入れた問題を授業で展開する。

3-① 3学期の章の「資料の散らばりと代表値」で丁寧に学習する。また、「基礎・基本」定着状況調査の過去問題を定期的に復習する。

3-② 割合や比を用いた問題を日常生活から取り入り、積を用いて求めることを体得させる。

・定期テストや章テストへ出題し理解度を測る。

・学習用のワークシートから定着しにくいところを、繰り返し出題する。

平成27年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 重井 中学校

理科

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	66.0	64.9	66.2	0.2
	基礎	71.3	70.2	73.8	2.5
	活用	38.9	37.8	26.7	-12.2
領域	物質・エネルギー	69.2	68.7	72.1	2.9
	生命・地球	64.3	62.9	63.0	-1.3
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.1	61.3	60.7	-1.4
	科学的な思考・表現	59.0	58.0	57.5	-1.5
	観察・実験の技能	66.8	66.3	67.2	0.4
	自然事象についての知識・理解	71.7	70.5	74.5	2.8

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成28年度	+5.0	+5.0	±0

※県平均との差を記入する。

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

1. 自然事象への関心・意欲・態度

①水溶液を用いた実験を適切に行うことができる。

2. 科学的な思考・表現

①だ液のはたらきを実験の結果から考察し説明できる。

②資料の内容から月と太陽の位置の関係を理解し、資料が書かれた時刻と月の形の見え方を推測できる。

③未知の水溶液を特定する実験の方法を計画できる。

1-①
観察・実験を行う前に、「実験で何を検証するのか」ということを確認した上で、既習内容を基に仮説を立てさせてから観察・実験を行わせる。

2-①
観察・実験の結果から、類似点や相違点、数量関係を見い出させ、まとめさせる。

2-②
ICTの活用により、紙面上の情報との比較をさせ、視覚的な認識の拡がりを図る。

2-③
学習課題に対して、「この観察・実験は何を目的とするのか」、そのために「どのような観察・実験を行うか」を考えさせる。

・今回調査を実施した学年に対し、1学期・2学期に問題解説や解き直しを行う。

・2学期、3学期に同一の問題を行い、再度実態調査を行う。その中で正答率の低い問題について、繰り返し同一問題、類似問題を続ける。